

■米国：カリフォルニア ISO、今夏の需給はやや逼迫するとの見通しを発表

独立系統運用機関 CAISO は 2018 年 5 月 9 日、今夏の需給見通しを発表し、特に高需要期の夕方に需給逼迫となる可能性があることを示した。今年は 4 月 2 日時点で積雪に含まれる水分含有量が例年平均の 51%と少なく、夏期終盤には水力発電が 130 万 kW 減少する見込みである。さらに、昨夏以降、86 万 kW の発電機の廃止(内、天然ガス火力が 83 万 7,000kW)が見込まれる一方で、新設は 69 万 2,000kW (内、太陽光が 60%)にとどまっており、供給力の不足が懸念されている。今夏の供給力の計画 5,195 万 kW に対し、通常時のピーク需要は 4,663 万 kW と予測されているが、昨夏はピーク需要 5,012 万 kW を 9 月 1 日に記録しており、昨年並みに気温が高くなった場合、日が落ちて太陽光が枯渇する時間帯には、需給逼迫となるおそれがある。過去の気温や需要データ、現在の発電機の利用率に沿った 2,000 シナリオの分析によると、2007 年以降行われていない緊急節電要請を、今夏は 50% の確率で行使する可能性がある。ただし、輪番停電まで強いられる可能性は、極めて少ないとされている。